

第 11 回 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

1. 開催日時 : 令和 5 年 2 月 15 日(水) 10:00~11:45
2. 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田 211-5)
3. 出席委員 : 石飛 厚志 委員長、作野 広和 委員、村尾 富義 委員、宇田川 光好 委員、
糸原 健二 委員、藤原 努 委員代理、後藤 耕 委員、杉谷 博之 委員、
平井 雅之 委員代理



4. 議事次第
 - 1) 開 会
 - 2) 挨拶 (委員長: 石飛 厚志 雲南市長)
 - 3) 出席者紹介
 - 4) 議 事
 - ① 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
 - ② 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ③ 令和 4 年度のプロジェクト実施状況
 - ④ 第 2 期 尾原ダム水源地域ビジョンの策定
 - ⑤ 令和 5 年度の実施プロジェクト(案)
 - ⑥ その他
 - 5) 閉 会
5. 配付資料
 - ・ 資料-1 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
 - ・ 資料-2 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ・ 資料-3 令和 4 年度のプロジェクト実施状況
 - ・ 資料-4 第 2 期 尾原ダム水源地域ビジョン(案)
 - ・ 資料-5 令和 5 年度の実施プロジェクト(案)

6. 議事要旨

1) 挨拶

- ・ 今年度も新型コロナということがございましたが、この地域で様々なスポーツ大会、イベントを工夫しながら実施していただいておりますことに改めて感謝申し上げます。
- ・ 昨年 10 月には、尾原ダム完成 10 周年ということで、皆さま方のおかげで盛大に開催させていただくことができた。この斐伊川地域をさらに推進していき、また、この地域が発展していく契機になったと考えている。
- ・ 本日は、昨年度よりご検討いただいている次期ビジョンについて諮っていく。ちょうど 2030 年の国民スポーツ大会でこの尾原ダムがボート競技の会場に選定された。これもこの地域の発展のための一つの材料として大変心強く期待するものである。これまでの推進委員の皆さま方やさくらおろち湖活性化ネットワーク会議などを通じて様々なご意見を取りまとめさせていただき、本日提示するものであるが、是非とも皆さま方の活発なご議論をお願いしたい。



2) 議事

① 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正

- ◆ 規約改正について、事務局提案どおり承認された。

承認以降、オブザーバで出席の NPO 法人さくらおろち理事長を当該委員会の委員として参加いただく。

【事務局説明内容】

- ・ 第 4 条(組織等)の別表を変更(「NPO 法人さくらおろち 理事長」を追加)
- ・ 第 7 条(事務局)の所属名を変更(奥出雲町「商工観光課」から「まちづくり産業課」に変更)

② 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

- ◆ 事務局より「第 10 回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」以降の取組状況について報告があり、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 第 10 回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨(規約改正、取組状況報告、当該年度の実施状況、翌年度のプロジェクト紹介ほか)

- ・ さくらおろち湖活性化ネットワーク会議の活動報告
(FUN まつりの企画、次期ビジョン、10 周年記念イベントほか)

③ 令和 4 年度のプロジェクト実施状況

- ◆ 事務局より令和 4 年度のプロジェクト実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 今年度は、ほとんどのイベント等を中止することなく実施でき、周辺施設への来訪者数も昨年度と同程度の見込み。
- ・ 尾原ダム完成 10 周年記念事業として、尾原ダム完成 10 周年記念の集いを 10 月 16 日に開催した。また、シンボリック事業として、ロゴマークを活用した取り組み等を紹介した。
- ・ その他、CSR 活動、下流域からの支援として松江堀川遊覧船によるさくらおろち湖遊覧の実施、流域圏連携として遠足ウィーク、志津見ダムとの連携(コスモス祭りでのパネル展等)、尾原ダム見学、情報発信、森林整備・管理(伐採、植樹、七夕の笹提供ほか)、水質保全(土砂還元等)、ビューポイントの発掘(さくらおろち湖写真コンテスト)、尾原ダムの魅力発掘(クレストゲート点検放流)、さくらおろち湖魅力発見ツーリズムなどの取り組みを紹介。

【委員からの主な意見】

- ・ 周辺環境整備として竹の伐採について紹介があったが、竹は毎年生えて雪等でも道路へ影響するが、今後、どのように考えているか。
⇒ 昨年度より国で重点的に取り組んでいるところであるが、一度に対応することは困難なため、毎年順次エリアを決めて伐採を継続していく考えである。
- ・ 植樹にコハウチワカエデの樹種を選定されているのはなぜか。
⇒ 過去に策定された尾原ダム周辺植栽計画に位置付けられている。
- ・ 水質保全として土砂還元の取り組みをされているが、生物の生育環境の保全に具体的にどのような効果があったか。
⇒ 土砂還元は令和 2 年度より試行段階として取り組んでいるが、徐々に投入する土砂量を増やすなどして効果を確認しながらやっているところであり、一つは川底の付着藻類の更新、もう一つは川底の細粒分の保全であり、ある程度の効果を確認しているところである。

④ 第 2 期 尾原ダム水源地域ビジョンの策定

- ◆ 事務局より第 2 期 尾原ダム水源地域ビジョンについて説明し、委員意見を反映させることを条件に承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 策定(案)までの主なスケジュールの紹介。
- ・ 主な改定ポイントとして、キャッチフレーズは第1期を踏襲し「みんなで、やら～や！」を加えたこと、第2期の評価は前期5年・後期5年で実施すること、水源地域ビジョンの対象エリアに斐伊川流域に加え車で1時間到達圏内を追加したこと、多様な主体の連携で地域全体の自立的、持続的な発展を目指すこと、第1期の基本方針に「みんなで、やら～や！」を加えたこと、プロジェクトを重点化したことを説明。

【委員からの主な意見】

- ・ ボート競技や自転車競技に関する大会が開催されているが、大会に合わせ道路清掃がなされ、非常に環境がよく、ここはきれいだなという印象がよく映るっているところであるが、これらはこういった位置付けとなっているか。
⇒ ボート競技施設や自転車競技施設の活用に関しては、プロジェクト15の周辺施設の活用位置付けている。
- ・ 基本方針1「水源地域を結び、拓く」の中で「水源地域の多様な関係者」という文言に違和感がある。人に対して「多様な」という言葉はあまり使わないと考えており、ここは単純に「多くの関係者」でよいのではないかと考える。
⇒ ご指摘いただいた部分について、ご提案いただいたように、「多様な関係者」を「多くの関係者」に見直す。
- ・ 基本方針4「みんなで、やら～や！」の中で、主語がなく何を推進していくのかわからないことから、例えば「みんなで、やら～や！」を強調するため「水源地域ビジョンを実現するため、関係団体等が一体となり、持続可能な取組みとして計画、継続的に推進していきます」というのを「水源地域ビジョンの実現に向け、持続可能な取組みを計画的、継続的に推進するため、関係団体等が一体となります」と逆にした方がよいと考える。
⇒ ご指摘いただいた部分について、ご提案いただいたことも踏まえ、事務局にて見直しを検討する。
- ・ 基本方針1に関し、当初構想していた学生参加や地域住民の日常的な参加に至っていないといったことが過去10年間ずっと課題となっている。非常に皮肉なことに、尾原ダムができるまでは、上流域のダム建設、あるいは中流域の放水路、下流域の大橋川を含めた改修ということで、下流域の関心も高く、いろんなきっかけやチャンスがあったが、ダムがあるのが当たり前になって定常化してくると、いろんな関わりはあるが学生や地域住民の参画は

次第に薄れていっており、ただ単に学生に来てください・手伝ってくださいといったことではなく、大いにアイデアを出して考えていく必要がある。

- ・ ビジョンの対象範囲として車で 1 時間到達圏内といった説明があったが、これだと松江市関係がエリアから外れるがどうするのか。
⇒ 説明が不足していたが、従前の斐伊川流域に加え、車で 1 時間の到達圏内もといった範囲である。
⇒ そうであれば、対象エリアを囲うなど、わかりやすく表現してもらいたい。
⇒ 対象エリアについてわかりやすい表現に見直す。
- ・ 本ビジョン案を策定するタイミングで尾原ダムが国スポ 2030 のボート競技会場になることは決まっていなかったかもしれないが、これに合わせ、プロジェクト 16 のさくらおろち湖の活用について、今後、特に松江との交流がボート競技に関して活発になると考えており、重点プロジェクトに位置付けることを提案する。
⇒ ご提案いただいた 16 さくらおろち湖の活用について、重点プロジェクトの位置付けにする方向で事務局内の整理をする。

⑤ 令和 5 年度の実施プロジェクト(案)

- ◆ 事務局より令和 5 年度の実施プロジェクト(案)について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 先程ご承認いただいた第 2 期 尾原ダム水源地域ビジョンに基づき、実施内容(案)を紹介する。
- ・ 具体的な内容については、3 月に予定されているさくらおろち湖活性化ネットワーク会議での意見交換を踏まえ詳細を詰めていく予定としている。

【委員からの主な意見】

- ・ このほど、インバウンドが再び盛んになってきており、雲南市では台湾といろいろ交流があり、台湾では自然を生かしたスポーツ、サイクリング等が盛り上がっていると聞いている。今後、そういった視点で、インバウンドに向け、この地域では非常に素晴らしい素材を持っていると思っており、そういったところにも働きかけ、あるいは具体的な計画が動き出したら協力をお願いしたい。